

科目名 (英)	就職講座 Career Development	年次	1	実務経験	担当	佐藤・大迫・野村
		授業形態	演習			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・専攻	美容師科	単位	1			曜日・時間
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	美容業界の仕事、職種内容の理解を深め、職業選択を決める。また社会人に必要な身構え、気構え、心構えを身につける。					
到達目標	プロの職業人を目指すに当たり、美容業界に必要な基礎知識・業界情報を理解し、職業選択を決定する。 笑顔であいさつができるようになっている。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	Hand-book of Life Style(6回目の授業で使用)			事前事後 学習と その内容	スケジュールを毎回確認していくので、必ず手帳に予定を書くことを癖づけてください。スケジュール管理も社会人基礎力に欠かせないものになります。	
教材	スケジュール帳・メモ帳・筆記用具					
特記事項	必要事項はメモをとること					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	学校ルール、個人・クラス目標を定める	学校のルールを理解、個人・クラスルールの決定 ※ ITリテラシー、学習能力テスト実施
2	職業研究①	人気エリアサロン散策 前教育
3	職業研究②	人気エリアサロン散策 後教育 グループワークにて共有する
4	ベルリンピックについて	ベルリンピックについて、役割などを決める
5	自己分析	自分史を作成し、自分の強み弱みを知る。
6	国際教育①	韓国語などの言語を通して異文化理解を深める
7	中間試験・ベルリンピックについて	自己PRを作成。750文字～800文字でまとめる。 ベルリンピックに向けての最終確認
8	コミュニケーション力向上(伝達力)	グループワークを通して、コミュニケーション力と伝達力を身につける
9	国際教育①	韓国語などの言語を通して異文化理解を深める
10	個人ワーク	コラージュ作成。想像力や表現力を鍛え、自己理解を深める
11	グループワーク	作成したコラージュをグループワークを通して他者に共有し他己理解を深める。
12	業界研究(マナー)	サロン見学の仕方、マナー、ルール、電話対応の仕方を学ぶ
13	業界研究(マナー) 夏休みにあたっての重要事項	長期休暇を使って、準備しておきたい項目を理解する。コンテストについて
14	定期試験	履歴書の作成し、企業に提出できる形に仕上げる。
15	定期試験振り返り・後期に向けて	わからない分野の洗い出しをし、必要な知識の整理をする。整理をすることで職業選択の決定につなげる。

科目名 (英)	業界ゼミ Industry Seminar	年次	1	実務経験	担当	岩本 大迫 佐藤 城本
		授業形態	演習			
	時間数	30	有	開講区分	火曜4限	
学科・コース	美容師科	単位				1
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	業界で活躍するプロから最新の技術と現場力を学ぶ。					
到達目標	業界を知る。学んだ技術知識を発揮し実践することができるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■ 実技試験 ■ 作品					
教科書				事前事後 学習と その内容		
教材						
特記事項	講義及び掲示物について、著作権のある資料も使うことがある為写真撮影及び録音録画を禁止する					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	美容全般の技術を学ぶ①	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用、実際に現場で実施している技術を学ぶ
2	美容全般の技術を学ぶ②	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用、実際に現場で実施している技術を学ぶ
3	美容全般の技術を学ぶ③	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用、実際に現場で実施している技術を学ぶ
4	美容全般の技術を学ぶ④	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用、実際に現場で実施している技術を学ぶ
5	美容全般の技術を学ぶ⑤	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用、実際に現場で実施している技術を学ぶ
6	美容全般の技術を学ぶ⑥	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用、実際に現場で実施している技術を学ぶ
7	プレゼンテーション①	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用、実際に現場で実施している技術を学ぶ
8	美容全般の技術を学ぶ⑦	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
9	美容全般の技術を学ぶ⑧	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
10	美容全般の技術を学ぶ⑨	学んだ技術を使用し、作品を作る
11	美容全般の技術を学ぶ⑩	実施に作った作品を写真ではどう見えるか知る。
12	美容全般の技術を学ぶ⑪	9～11回の授業振り返り、課題の克服する
13	美容全般の技術を学ぶ⑫	学んだ技術を使用し、作品を作る
14	美容全般の技術を学ぶ⑬	実施に作った作品を写真ではどう見えるか知る。
15	美容全般の技術を学ぶ⑭	プロから評価をしていただく

科目名 (英)	美容総合技術(おもてなし検定) Comprehensive beauty technology	年次	1	実務経験	担当	塚本 博美
		授業形態	演習			
学科・専攻	美容師科	時間数	30	有	開講区分	前期
		単位	1			
講師紹介	企業研修マネー講師・産業カウンセラー・サービス接客インストラクター・おもてなしマスター講師が就職現場に基づいた「おもてなし」が出来るよう細かく指導する。「おもてなしマスター検定」に必ず合格させる。そのためには授業を休まないことが必須条件、教本1冊を16回の授業内で行う。後半は過去の試験問題を解きながら試験形式に慣れるようにする。顧客満足を考え、日頃から何気ない立ち居振る舞いや笑顔、癖なども注意を促していく。(例えば配布物の受け渡しなども接客マナーに沿ったやり方を細かく指導し現場で使えるようにしていく。					
目的 科目概要	目的: おもてなしマスター検定合格 概要: 職場の人間関係に於いて必要なコミュニケーション技術を身につけ、おもてなし検定合格を目指す。					
到達目標	おもてなしマスター検定資格試験に合格する。合格の為に必要な「おもてなしの心」「おもてなしの型」「スキル」を身につけ実践することが出来る。今まで知らなかった接客敬語をマスターし使えるようになる。(小テスト)					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品 □ 提出課題					
教科書	「おもてなしマスター」資格検定教本		事前事後学習とその内容 日々自分がお客様として店頭に立った際に「おもてなし」を意識する感覚を磨く。お客様の立場で満足・不満足的心境を知る。どんなサービスがお客様に喜ばれるのかを考える。好印象を持って貰えるように日頃から立ち居振る舞いに注意する。			
教材	プリント(補助教材)					
特記事項	集中力を高めるために毎授業、接客敬語をテストし敬語に慣れるようにします。心理テストを行い自分を理解します。					

授業計画

回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション・おもてなし検定について	将来どのようなお客様と接しても「おもてなしのプロ」として接客出来るスキルを身につける為の大切な授業であることの意識付け。
2	ニコニコトレーニング・おもてなし体験について	お客様対応に於いて「笑顔の重要性」を学びます。おもてなしは日本が世界に誇る素晴らしい文化であること。人生で成功するための鍵であることを指導。
3	おもてなしの心について理解する	「利他の心」「一期一会」「期待を超える」お客様の心理を知る。
4	おもてなしの型とは	おもてなしの基本となる「5つの型」「スキル」を理解する。
5	傾聴スキル「聞く」と「聴く」の違い	サービス業に於いて必要な「傾聴スキル」を学び、アクティブリスニングのコツをトレーニングします。傾聴スキルの自己評価で自分の癖を知ります。
6	タイムルール・時間管理	お客様をおもてなしするときに注意すべき「時間管理」を学ぶ。
7	中間試験	1回目から6回目を振り返り中間試験を実施。
8	事前調査・環境設定	お客様に快適と安心を与える空間とはどんな空間でどんな要素が必要なのかを知る。事前調査で知り得たお客様の属性や個性を反映させた環境作りを考える。
9	場面演出	場面演出を理解する。変化に対応出来る力を身につける。特にイレギュラーな出来事への対応を考える。
10	イベント演出スキル	即断即決の柔軟な対応でお客様を不快にさせない。アサーティブな自己表現を身につける。
11	変化対応・アサーション	お客様からクレームをいただいた際の処理解決に必要なアサーションを学ぶ。
12	ホジティブシンキング・ストレスマネジメント・エゴグラム	変化対応におけるポジティブシンキング・ストレスマネジメントの必要性を理解する。お客様を理解する手がかりの一つとしてエゴグラム活用法を知る。自分自身の心の癖を知る。
13	なぜなぜシンキング・KJ法・コーチング	「なりたい姿」に人を導くため、自分を導くためのビジネススキルを学び今後のおもてなしに活かす。
14	過去問題	過去に行ったおもてなし検定問題を解きながら、陥りやすい点に気をつけて全員合格を目指す。
15	おもてなし検定受験日	授業の振り返り。おもてなし検定実施。

科目名 (英)	美容総合技術 (パーソナルカラー検定) Comprehensive beauty theory	年次	1	実務経験	担当	高橋 名都紀
		授業形態	演習			
学科・専攻	美容師科	時間数	30	有	開講区分	前期
		単位	1			曜日・時間
講師紹介	カラーリスト歴: 15年。個人サロンを立ち上げ、パーソナルカラー診断・骨格診断・顔タイプ診断、メイクアドバイスを年間500名以上の方へアドバイスを行っている。個人だけでなく、企業、行政、学校などでパーソナルカラーセミナーや色彩セミナーを年間数十回担当、色彩に関する知識だけでなく、みなさんの色感やスキルアップ、ファッション&メイクセンスアップにつながるような実践的な授業を行う。					
目的 科目概要	目的: 似合う色を活用する方法を学ぶことで、TPOに合わせた自分の魅せ方(自分ブランディングの仕方)を学ぶ。 概要: パーソナルカラーの探し方や取り入れ方の基礎、そのもとになる色彩学の基礎を習得する。 実習で自分の似合う色を体感し、パーソナルカラーを通して「自分らしさ」を見つける。					
到達目標	パーソナルカラー(自分に似合う色)を見極める過程と、客観的に自分にはどのような色が似合うかを学ぶ。色を活用しながら「自分らしさ」を生かすスキルを習得し、自己表現ができ、自分に自信を持ち、自己表現の幅を広げられるようになる。 ○パーソナルカラー検定3級(2026年度夏季)の合格することができるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品 □ 提出課題					
教科書	色彩活用パーソナルカラー検定 公式テキスト3級			事前事後 学習と その内容	授業の進行に合わせて必要がある場合は、ホームワークとして課題、復習、問題集、プリントの課題を実施いたします。 もし授業を欠席した場合は、授業の要点をまとめたものをTeamsにアップロードするので、必ず確認しましょう。(復習として使用可○)	
教材	新配色カード199a、新配色カード199a演習台紙、公式問題集、過去					
特記事項	【カラーワーク】がある日は、必ず「はさみ、のり」を持参してください。					

授業計画

回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション パーソナルカラーと自分ブランディングについて	授業のオリエンテーション パーソナルカラー(似合う色)を知ることのメリットと概要を理解する。【カラーワーク】
2	色の三属性(色相、明度、彩度)	色彩の基本である色の三属性(色相、明度、彩度)を学ぶ。
3	トーン(色の調子)	トーンの見え方と仕組みを理解する。 身の周りの色や指定された色をトーンでとらえられるように、慣れる。
4	パーソナルカラーの色分け 4シーズンのカラーパレット作成	パーソナルカラーの色分け【カラーワーク】 4シーズンの色の特徴を見分け、色分類ができるように、色感を磨く。
5	色素の見分け方 色素チェック	生まれながらに持った色素(肌、髪、眼の色と質感)の特徴の見分け方のポイントと、色素と似合う色の関係性を学ぶ。自分はどんな色素を持っているのかを確認する。
6	似合う色の取り入れ方	4シーズンの似合う色の取り入れ方(ファッション、メイク、アクセサリ、柄、素材) 似合わない色の見え方も確認する。
7	中間試験 ドレーピングの仕方	20問/20点満点 選択問題 ドレーピングによる似合う色の見つけ方をおさえ、実習に備える。
8	対比 色名	色による顔色の見え方の変化を理解する。 系統色名と慣用色名の色の名前を使い分けのポイントを学ぶ。
9	反射・吸収 色と光	色はなぜ見えるのか?色と光の関係性を学ぶ。 検定に備えて過去問題を解き、問題に慣れる。
10	復習 検定対策	復習しながら過去問題を解き、検定問題の傾向をつかむ。 検定に出やすいポイントをおさえる。
11	復習 検定対策	復習しながら過去問題を解き、検定問題の傾向をつかむ。 検定に出やすいポイントをおさえる。
12	パーソナルカラー検定 受験	試験時間: 60分 問題数: 全89問 形式: マークシート 合格ライン: 80%
13	定期試験 ドレーピング実習①	25問/50点満点 ドレーピングによるパーソナルカラー診断の実習 グループに分かれ、ドレーブを比較しながら、お互いの似合う色を確認する。
14	ドレーピング実習②	ドレーピングによるパーソナルカラー診断の実習 グループに分かれ、ドレーブを比較しながら、お互いの似合う色を確認する。
15	ドレーピングのまとめ ふりかえり	自分ブランディングとは? 美容に活かすパーソナルカラーについて

科目名 (英)	美容総合技術(ヘアメイク) Comprehensive beauty theory	年次	1	実務経験	担当	足立 祐季
		授業形態	実習			
学科・専攻	美容師科	時間数	60	有	開講区分	前期
		単位	2			
講師紹介	化粧品メーカーのイベント等や広告媒体の第一線で活躍している現役ヘアメイクアップアーティストが基礎マナーを初めとする道具の使い方、メンテナンス方法、ベーシックメイクスキルを教える。□					
目的 科目概要	メイク製品の知識、道具の使い方、基礎となるプロセスを学び、美容室、ヘアメイク、マツエクサロン等で必須となる基本技術や知識を身につける。□ □					
到達目標	事前消毒をはじめ、美しい環境、道具の使い方を大切に、モデルの骨格に合ったフルメイクをイメージに合わせ色味の選択を正しくした上、美しく仕上げるができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品 □ 提出課題					
教科書		事前事後 学習と その内容	専門用語、実技スキルが必要となる為実習後は授業内のメモ等を活用し技術の復習を行い、専門用語は必ず覚える事。□			
教材			□	□	□	□
特記事項	肌が弱く教材が使用できない場合事前に報告をする□ □ □		□	□	□	□

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	自己紹介、検品、テーブルセッティングを学ぶ	ブランチ、アイテム等の名称、役割、メンテナンス方法を学び、作業時の身だしを学習する
2	スキンケア、ベースメイク	美しいベースメイクに必要な下地、コントロールカラーについて、ファンデーションの塗布の仕方、コンシーラーを使ったトラブルカバーを覚える。
3	チーク、ハイライト、ローライト	顔の立体を理解し、血色づくりや凹凸感を出すのに必要なテクニックを覚える
4	アイシャドウ	目の形にあったシャドウの入れ方、美しいグラデーションの作り方、色の選択方法を覚える
5	アイラインナー、アイラッシュ	ガタツキのない美しいラインの描き方、美しいカールを作るプロセスを覚える。角度に対しての印象の変え方、違いを覚える
6	アイブロー、リップ	アイブローの毛の生え方を理解し、美しく描く、唇の輪郭に合わせて美しくルージュを引く
7	中間試験30分フルメイク	事前消毒をはじめ、美しい環境、道具の使い方を大切に40分以内でモデルの骨格にあったフルメイクを美しく仕上げる
8	パック、クレンジング、フェイスマッサージ	中間試験のフィードバックとクレンジング、小顔フェイスマッサージを学ぶ
9	キュートメイク	キュートなイメージに合わせてアイメイク、チーク、アイブロー、リップの形の使い分け、的確な色味や質感を理解する
10	クールメイク	クールなイメージに合わせてアイメイク、チーク、アイブロー、リップの形の使い分け、的確な色味や質感を理解する
11	エレガントメイク	エレガントなイメージに合わせてアイメイク、チーク、アイブロー、リップの形の使い分け、的確な色味や質感を理解する
12	アイブロー強化、ベースメイク強化	コンシーラーテクニックの強化、アイブローのグラデーションの強化
13	苦手イメージ強化、色味の選択の強化	メイクの配列やデザインを強化しデモと違う色味でもイメージ通りに仕上げられるようになる
14	タイムアップ練習	定期試験に向けてタイムアタックを行い、その中で道具の使い方や仕上がりの美しさにも気をつける習慣をつける
15	定期試験25分イメージ別メイク	事前消毒をはじめ、美しい環境、道具の使い方を大切に25分以内でモデルの骨格にあったイメージ別フルメイクを正しい色味の選択で美しく仕上げらる□ □ □

科目名 (英)	美容技術理論 Beauty technological theory	年次	1	実務経験	担当	宮城 裕美
		授業形態	講義			
学科・専攻	美容師科	時間数	30	有	開講区分	前期
		単位	1		曜日・時間	月曜日2～4限
講師紹介	長年美容師、美容学校講師経験をしている講師が美容師の国家試験に必要な技術・知識・心得を習得する授業を行う					
目的 科目概要	国家試験筆記に必要な知識を身につけ、国家師試験の合格を目指す。					
到達目標	美容全般にかかわる技術の理論、取り扱い器具、薬剤知識を理解し説明できる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品 □ 提出課題					
教科書	美容技術理論1・2	事前事後 学習と その内容	授業の後、復習をし実習では習った単元の場合、技術理論を思い出し実践できるように臨んでほしい。□			
教材	タブレット					
特記事項	ノート・筆記用具(ペン・マーカーを含む)を用意する					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	序章 美容技術理論を学ぶにあたって	授業の進め方 教科書の確認・目を通す・ノートにまとめる・小テスト
2	1章 美容用具	教科書の確認・目を通す・ノートにまとめる・グループワーク・小テスト
3	1章 美容用具	教科書の確認・目を通す・ノートにまとめる・グループワーク・小テスト
4	2章 シャンプーイング	教科書の確認・目を通す・ノートにまとめる・グループワーク・小テスト
5	2章 シャンプーイング	教科書の確認・目を通す・ノートにまとめる・グループワーク・小テスト
6	1～5回までの復習	中間試験について 今までの復習
7	中間試験	自習・中間試験・ノートの提出
8	3章 ヘアデザイン	中間試験・ノートの返却・中間試験の解説 教科書の確認・目を通す・ノートにまとめる・グループワーク・小テスト
9	3章 ヘアデザイン	教科書の確認・目を通す・ノートにまとめる・グループワーク・小テスト
10	4章 ヘアカットイング	教科書の確認・目を通す・ノートにまとめる・グループワーク・小テスト
11	4章 ヘアカットイング	教科書の確認・目を通す・ノートにまとめる・グループワーク・小テスト
12	5章 パーマネントウェーブ	教科書の確認・目を通す・ノートにまとめる・グループワーク・小テスト
13	5章 パーマネントウェーブ	教科書の確認・目を通す・ノートにまとめる 今までの復習
14	定期試験	自習・定期試験・ノートの提出
15	定期試験返却	定期試験・ノートの返却 定期試験の解説

科目名 (英)	美容実習(ワインディング) Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	小坏亜矢子
		授業形態	実習			
学科・専攻	美容師科	時間数	60	有	開講区分	前期
		単位	2		曜日・時間	1組金3・4限 2組火1・2限 3組金1・2限
講師紹介	美容師として長きに渡り現場に立ち実務経験のある講師が、美容師の国家試験に合格するための技術・知識・心得を習得する授業を行う					
目的 科目概要	目的:国家試験科目であるワインディングの基礎技術を習得し、国家試験合格に向けて技術を向上させていく。パーマをかける理論を習得する。 概要:コツコツと練習し、基礎力を定着させる。					
到達目標	パーマの理論とワインディングに必要な器具用具の取り扱いを知り、基礎技術を理解し実践できるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品 □ 提出課題					
教科書	美容技術理論・美容実習	事前事後 学習と その内容	①手順と作り方等を覚えてから授業に参加する事。理解不足、技術不足は授業外で自習すること。 ②自宅等でロッドを転がす練習や巻き込みが素早く出来る練習など自主的に行う。			
教材	WD道具一式・タブレット(teamsの資料・動画)					
特記事項	欠席をした場合は、復習してから授業に臨む。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	用具使い方・セッティング	・前期の流れについて ・準備物とセッティングの説明 ・頭部名称 ・道具の使い方 ・授業のルール ・5ブロッキング ・下巻き導入 ・ウィッグの洗い方について
2	国家試験スタイル	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・5ブロッキング3分 ・下巻き1本2分 ・上巻き導入 ・ステムの角度と方向の強化
3	国家試験スタイル	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・5ブロッキング3分 ・センター30分 ・ステムの角度と方向の強化 ・巻方チェック(上下)
4	国家試験スタイル	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・5ブロッキング3分 ・センター30分 ・ステムの角度と方向の強化 ・巻方チェック(上下)
5	国家試験スタイル 中間試験採点項目について	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・5ブロッキング3分 ・センター30分 ・ステムの角度と方向の強化 ・巻方チェック(上下)
6	国家試験スタイル	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・5ブロッキング3分 ・センター30分 ・ステムの角度と方向の強化 ・巻方チェック(上下)
7	国家試験スタイル	・5ブロッキング3分 ・センター30分 ・フロント、サイド導入
8	国家試験スタイル	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・3ブロッキング2分 ・センター25分 ・フロント、サイド10分 ・右面導入
9	国家試験スタイル	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・3ブロッキング2分 ・センター20分 ・右面20分 ・左面導入
10	国家試験スタイル	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・3ブロッキング2分 ・センター15分 ・右面16分 ・左面14分
11	国家試験スタイル	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・3ブロッキング2分 ・センター15分 ・右面16分 ・左面14分 ・全頭50分
12	国家試験スタイル 定期試験採点項目について	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・3ブロッキング2分 ・全頭50分(ブロッキング込み、1本40秒のスピード、クオリティアップ)
13	国家試験スタイル	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・3ブロッキング2分 ・全頭50分(ブロッキング込み、1本40秒のスピード、クオリティアップ)
14	定期試験 / パーマかけについて	・全頭50分 ・パーマかけのブロッキング / 全頭巻く ※終わらない場合は授業外で仕上げる
15	試験振り返り・パーマをかける	・オールウェーブのウィッグにパーマをかける

科目名 (英)	美容実習(カット) Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	竹内 有美
		授業形態	実習			
学科・専攻	美容師科	時間数	60	有	開講区分	前期
		単位	2		曜日・時間	火曜1～2限、木曜1～2限・3～4限
講師紹介	美容師として長きに渡り経験のある講師が、カットとブローの基礎的な理論・技術をわかりやすく指導する。					
目的 科目概要	目的:カットとブローの基礎的な理論・技術を習得する。概要:カットのベーシックスタイルを学び、スタイルに合わせたブローで仕上げ、時間内に完成することができる。					
到達目標	カットブローの理論とカットに必要な用具を知り、基本姿勢と基礎技術を理解し実践できるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品 □ 提出課題					
教科書	美容実習 I 美容技術理論 I	事前事後 学習と その内容	シザー開閉の練習を行い、取り扱いに慣れる。			
教材	マニュアル・動画					
特記事項	欠席した場合は、マニュアル・動画で学習してから授業に臨む					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	用具の使い方・セッティング ウィッグ①新品	用具の確認、使い方、セッティングについて・専門用語の説明・コームとシザーワーク
2	ワンレングスカット・ブロー ウィッグ①	準備7分・シザー開閉・ワンレングスカット・ハンドブローができるようになる
3	ワンレングスカット・ブロー ウィッグ①	準備7分・シザー開閉・ワンレングスカット・ハーフラウンドブラシでブローができるようになる。
4	ワンレングスカット・ブロー ウィッグ①	準備7分・シザー開閉・ブロー強化ができるようになる。
5	ワンレングスカット・ブロー ウィッグ②新品	準備7分・シザー開閉・ワンレングスカット・ブロー(60分)・中間試験について
6	ワンレングスカット・ブロー ウィッグ②	準備7分・シザー開閉・ワンレングスカット・ブロー(60分)でできるようになる。
7	中間試験 ウィッグ③新品	ワンレングスカット・ブロースタイル (60分)
8	振り返り・前髪カット ウィッグ③	評価を踏まえて課題の確認・準備7分・前髪カット・ブロー・アイロン仕上げができるようになる。
9	ミニボブスタイル ウィッグ③	準備7分・ミニボブカット・ブロー・アイロン仕上げができるようになる。
10	ローレイヤーカット ウィッグ④新品	準備7分・ローレイヤーカットの手順を覚える
11	ローレイヤーカット ウィッグ④	準備7分・ローレイヤーカット・ハーフラウンドブラシ、ロールブラシを使ってブローができるようになる。
12	ローレイヤーカット ウィッグ⑤新品	準備7分・ローレイヤーカット・ハーフラウンドブラシ、ロールブラシを使ってブローができるようになる。
13	ローレイヤーカット ウィッグ⑥新品	準備7分・ローレイヤーカット・ブロー、アイロン仕上げができるようになる。
14	ローレイヤーカット ウィッグ⑦新品	準備7分・ローレイヤーカット・ハーフラウンドブラシ、ロールブラシを使ってブローができるようになる。
15	定期試験 ウィッグ⑧新品	ローレイヤーカット・ブローができるようになる。

科目名 (英)	美容実習(シャンプー) Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	宮城裕美 行川由希子 海兎 愛佳
		授業形態	実習			
学科・専攻	美容師科	時間数	60	有	開講区分	前期
		単位	2			
講師紹介	美容師として長きに渡り現場に立ち実務経験のある講師が、美容師の国家試験に必要な技術・知識・心得を習得する授業を行う。					
目的 科目概要	接客を行う際の立ち振る舞いを理解し、お客様への対応やサイドシャンプー技術を習得する。					
到達目標	シャンプー技術とお客様に対しての接客の基礎を学び、実践できるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点~90点A(4.0)、89点~80点B(3.0)、79点~70点C(2.0)、69点~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品 <input type="checkbox"/> 提出課題					
教科書	美容実習1 美容技術理論1			事前事後 学習と その内容	声かけやご案内は美容室や他業種の店舗に来店したとき、観察するとよい。シャンプーの手順はお店によって異なるが授業での手順をしっかりと覚え、自分の頭を使い自宅で演習すること。	
教材	シャンプー用具一式					
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	シャンプーの基礎知識	授業の進め方・目標・採点方法・注意事項について 美容技術理論・相モデルで練習
2	シャンプーの基礎知識 手順	美容技術理論・相モデルで練習
3	実践	相モデルで練習 フィードバック
4	実践	相モデルで練習 フィードバック
5	実践	相モデルで練習
6	中間試験について	中間試験の採点項目に基づいて、相モデルで練習
7	中間試験	試験 フィードバック
8	中間試験 振り返り・返却	中間試験の復習、練習
9	実践	相モデルで練習 フィードバック
10	実践	相モデルで練習 フィードバック
11	実践	相モデルで練習 60分で全員が仕上がるように協力して動く
12	定期試験について	相モデルで練習 60分で全員が仕上がるように協力して動く
13	定期試験	定期試験(夏休みに課題有) 60分で全員が仕上がるように協力して動く
14	バックシャンプーの導入	定期試験の返却・ビューティーサロンについて
15	バックシャンプーの導入	ビューティーサロンの役割決め

科目名 (英)	美容実習(ブロー/アレンジ/カラーリング) Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	蔭割 美実
		授業形態	実習			
学科・専攻	美容師科	時間数	60	有	開講区分	前期
		単位	2			
講師紹介	VidalSassonAcademyにて技術を習得し、ヘアサロン店長のちフリーランス美容師として映像、MV、ブライダル、イベントにて実務経験のある講師が実用的且つ実践的なヘアセット、ブロー、カラーリングなどサロンワークに必要な技術を教授します。					
目的 科目概要	ヘアセット、ブロー、カラーリングを学びアシスタントテクニックの基礎を習得する。					
到達目標	ブロー、ヘアアレンジ・カラーリング基礎知識と技術を学び、実践できるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品 <input type="checkbox"/> 提出課題					
教科書	美容技術理論1、美容実習1	事前事後 学習と その内容	美容実習Iのヘアセッティング(ブロー)を参考に、授業中練習。今後人頭(ビューティーサロン)施術出来るよう練習。ヘアアレンジは、ピンニングヘアアイロン技術を習得。カラーリングは美容技術理論を理解して技術にあたって欲しい			
教材	カラーリング教材一式、ドライヤー、ブラシ、ピン類					
特記事項	前日までにコマシラバスを確認してください。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	【アイロン】内巻き、外巻き、ミックス巻き	内.外.ミックス巻きを学ぶ (4回目までにヘアピン用、工具箱準備) ウィッグ金髪UP180G
2	【アイロン】波巻き、ぬじり巻き	波巻き.ぬじり巻きを学ぶ ウィッグ金髪UP180G
3	【アイロン】1.2回の巻方復習.ストレートアイロン	1.2回目の復習、ストレートアイロンの技術習得 ウィッグ金髪UP180G
4	【アレンジ】ねじり留め、一束結び	サイドの髪をピンニング、後ろを結びポニーテールを作る ウィッグ金髪UP180G
5	【アレンジ】編み込み	表編み、裏編み、片編みを学ぶ ウィッグ金髪UP180G
6	【アレンジ】ハーフアップ、アップ	ウォーターホール、編み込みハーフアップ ウィッグ金髪UP180G
7	【アレンジ】ハーフアップ、アップ	ゆるふあアレンジアップ ウィッグ金髪UP180G
8	【アレンジ】ハーフアップ、アップ	ゆるふあアレンジアップ ウィッグ金髪UP180G
9	【ブロー】ワンレングスカット、ブロー	カットマネキンip500L黒カット、ハーフラウンドブラシでブロー左右ブラシの使い方を学ぶ
10	【カラーリング】ウィーピング	ホイルを使用、ウィーピングを学ぶ、ドライ、ブロー ウィック ip500L黒
11	【カラーリング】スライシング	スライシングのやり方を学ぶ、ドライ、ブロー ウィック ip500L黒
12	【カラーリング】ブロッキングカラー	ブロッキングカラーを学ぶ、ドライ、ブロー ウィック ip500L黒
13	【カラーリング】全頭カラーリング	ブリーチで全頭をムラなくきれいにブリーチ、ドライ、ブロー ウィック ip500L黒
14	作品作り仕込み(練習)	ヘアセット、アレンジを考える、デザインシート制作
15	作品作り、発表	ヘアセット、アレンジを考える、デザインシート制作 制作→発表

科目名 (英)	保健 Health	年次	1	実務経験	担当	青柳光子
		授業形態	講義			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・専攻	美容師科	単位	1			曜日・時間
講師紹介	美容師養成施設教員免許取得(衛生管理・保健・化粧品・文化論・運営管理)					
目的 科目概要	保健と美容は深い関係があり、基本的な保健知識を身につけることでお客様からの信頼を得ることができる。					
到達目標	教科書の基本的な語句と意味を覚えることで、「美」に関するのトータルサポートができるようになる。 美容国家試験重要科目を理解して確実に合格レベルを上げるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■筆記試験 ■提出課題					
教科書	日本理容美容教育センター 保健 I			事前事後 学習と その内容	①教科書を理解する。 ②美容と保健の繋がりを理解と実践する。	
教材	PowerPoint					
特記事項						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	「なぜ?保健」 授業説明《到達目標・評価基準・オンデマンド授業》
2	第1章 頭部・顔部・頸部の体表解剖学	1項:人体各部の名所 2項:頭頸部の体表解剖学
3	第2章 骨格器系	1項:骨の種類と構造 2項:骨の連結 3項:骨格器系のはたらき
4	第3章 筋系	1項:筋の種類と特徴 2項:主な骨格筋とそのはたらき 3項:表情筋と表情運動
5	第4章 神経系	1項:神経系の成り立ち 2項:中枢神経とそのはたらき 3項:末梢神経とそのはたらき
6	第5章 感覚器系	1項:視覚 2項:聴覚 3項:平衡感覚 4項:味覚 5項:嗅覚 6項:皮膚感覚
7	前期 中間試験	第1章から第5章までの総合問題 20問
8	前期 中間試験《解答・解説》	中間試験の内容を知識・スキルを定着する。
9	第6章 血液と免疫系	1項:血液のあらまし 2項:免疫のあらまし 3項:アレルギー
10	第7章 循環器系	1項:心臓のあらまし 2項:血液循環のしくみ 3項:血液の循環経路 4項:リンパ管系の仕組みとはたらき
11	第8章 呼吸器系	1項:呼吸器系のあらまし 2項:気道 3項:肺の仕組みとガス交換 4項:呼吸運動
12	第9章 消化器系	1項:消化器系のあらまし 2項:消化管の仕組み 3項:消化管のはたらき 4項:消化管と物質代謝
13	演習問題①	国家試験問題を解き、教科書を使って理解を定着させる。
14	前期 期末試験	《人体の構造及び機能》総合問題 30問
15	前期 期末試験《解答・解説》	学んだ内容(インプット)を基に、問題を解く(アウトプット)理解の定着

科目名 (英)	文化論 Beauty cultural theory	年次	1	実務経験	担当	青柳光子
		授業形態	講義			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・専攻	美容師科	単位	1			曜日・時間
講師紹介	美容師養成施設教員免許取得(衛生管理・保健・化粧品・文化論・運営管理)スタイルとして海外実務経験の中で実際に海外文化を学んだ。日本文化の素晴らしさは海外でも関心が高い。ファッションには歴史があり、現代ファッションに大きく関係している。日本独特のファッション文化の成り立ちも教授する。					
目的 科目概要	文化論を学ぶことで、新しいデザインのヒントを見つけると共に流行を発信できる力を身につける。					
到達目標	ファッションの歴史を理解を深めることで、ファッション全体の視野を広げることができるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■筆記試験 ■提出課題					
教科書	日本理美容教育センター 文化論 I		事前事後 学習と その内容	各時代のファッション文化の特徴を理解することで、髪型・化粧・服装のスキルを高めることができる。		
教材	PowerPoint					
特記事項						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション / 第1章 総論	授業説明《到達目標・評価基準・オンデマンド授業》 第1節: 総論
2	第2章 日本の理美容・美容業の歴史	第1節: 理美容業・美容業の登場 第2節: 江戸時代の理美容業・美容業 第3節: 近代の理美容業・美容業 第4節: 現代の理美容業・美容業
3	第3章 ファッション文化史日本編	第1節: 縄文・弥生・古墳時代 第2節: 古代(飛鳥・奈良・平安時代) 第3節: 中世(平安時代末期・鎌倉・室町・戦国時代) 第4節: 近世 (戦国時代末期・安土桃山)
4	第3章 ファッション文化史日本編	第5節: 近世(江戸時代) 日本髪
5	第3章 ファッション文化史日本編	第6節: 近代(明治時代) 髪型・化粧・服装
6	第3章 ファッション文化史日本編	第7節: 近代(大正時代) 髪型・化粧・服装
7	前期 中間試験	第6節～第7節 髪型・化粧・服装 20問
8	前期 中間試験《解答・解説》	中間試験の内容を知識・スキルを定着する。
9	第3章 ファッション文化史日本編	第8節: 近代(昭和20まで) 髪型・化粧・服装
10	第3章 ファッション文化史日本編	第9節: 現代(1945～1950年代) 髪型・化粧・服装
11	第3章 ファッション文化史日本編	第10節: 現代(1960年代～1970年代) 髪型・化粧・服装
12	第3章 ファッション文化史日本編	第11節: 現代(1980年代～1990年代) 髪型・化粧・服装
13	第3章 ファッション文化史日本編	第12節: 現代(2000年代～2010年代) 髪型・化粧・服装
14	前期 期末試験	第8節～12節 髪型・化粧・服装 30問
15	前期 期末試験《解答・解説》	学んだ内容(インプット)を基に、問題を解く(アウトプット)理解の定着

科目名 (英)	美容総合技術	年次	1	実務経験	担当	大和田一樹、足立祐季、荒谷健太、 下島友弥、高橋美羽、川戸有子、遠藤智緒里
	Comprehensive beauty technology	授業形態	演習			
学科・コース	美容師科	時間数	180	有	開講区分	後期
		単位	6		曜日・時間	火1,2・木1~4限
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	業界で活躍するプロから最新の技術と現場力を学ぶ。					
到達目標	常に、お客様、モデルを想定しての接客・応用技術を身に付けることができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■ 実技試験 ■ 作品					
教科書				事前事後 学習と その内容		
教材						
特記事項	講義及び掲示物について、著作権のある資料も使うことがある為 写真撮影及び録音録画を禁止する					

授業計画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	美容全般の技術を学ぶ①	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 基礎技術の振り返り
2	美容全般の技術を学ぶ②	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 基礎技術の振り返り
3	美容全般の技術を学ぶ③	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 基礎技術の振り返り
4	美容全般の技術を学ぶ④	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
5	美容全般の技術を学ぶ⑤	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
6	美容全般の技術を学ぶ⑥	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
7	プレゼンテーション①	テーマに合わせた作品のプレゼンテーションを実施する
8	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
9	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
10	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
11	美容全般の技術を学ぶ②	8～9回の授業振り返り、課題の克服する
12	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
13	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
14	美容全般の技術を学ぶ③	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
15	美容全般の技術を学ぶ③	プロから評価をしていただく

科目名 (英)	保健 Health	年次	1	実務経験	担当	青柳光子
		授業形態	講義			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・専攻	美容師科	単位	1		曜日・時間	水曜日.3~4限
講師紹介	美容師養成施設教員免許取得(衛生管理・保健・化粧品・文化論・運営管理) 国内外での美容師としての技術・知識を活かしわかりやすく授業を行う。					
目的 科目概要	保健と美容は深い関係があり、基本的な保健知識を身につけることでお客様からの信頼を得ることができる。					
到達目標	教科書の基本的な語句と意味を覚えることで、「美」に関してのトータルサポートができるようになる。 美容国家試験重要科目を理解して確実に合格レベルを上げるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点~90点A(4.0)、89点~80点B(3.0)、79点~70点C(2.0)、69点~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 提出課題					
教科書	日本理容美容教育センター		事前事後 学習と その内容	教科書をベースに重要なポイントをプリント等を使用する。		
教材	PowerPoint					
特記事項						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業説明:達成目標・評価基準・定期試験・授業進行・授業ルール 皮膚と美容の関係について学ぶ。
2	第1章 皮膚の構造	3項 表皮 5項 真皮 6項 皮下組織と皮下脂肪を学び理解できるようになる
3	第2章 皮膚付属器官の構造	1項 毛 2項 脂腺(皮脂腺)》を学び理解できるようになる
4	第2章 皮膚付属器官の構造	3項 汗腺 4項 爪を学び理解できるようになる
5	第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能	1項 対外保護作用 2項 体温調節作用 3項 知覚作用と皮膚反射を学び理解できるようになる
6	第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能	4項 分泌排泄作用 5項 呼吸作用 6項 吸収作用 7項 貯蔵作用を学び理解できるようになる
7	後期 中間試験	皮膚科学【第1章~第4章】20問実施する
8	後期 中間試験《解答・解説》	後期中間試験の内容を知識・スキルを定着できるようにする。
9	第5章 皮膚と付属器官の保健	1項 皮膚と全身状態 2項 皮膚と精神 3項 皮膚と栄養を学び理解できるようになる
10	第5章 皮膚と付属器官の保健	8項 皮膚の保護と手入れ 9項 毛の保護と手入れ 10項 爪の保護と手入れを学び理解できるようになる
11	第6章 皮膚と付属器官の疾患	12項 分泌異常による皮膚疾患 13項 化膿菌による皮膚疾患を学び理解できるようになる
12	第6章 皮膚と付属器官の疾患	14項 ウイルスによる皮膚疾患 15項 真菌による皮膚疾患を学び理解できるようになる
13	第6章 皮膚と付属器官の疾患	16項 衛生害虫による皮膚疾患 17項 感染症による皮膚疾患を学び理解できるようになる
14	後期 期末試験	皮膚科学【総合問題】 50問実施する
15	後期 期末試験《解答・解説》	学んだ内容(インプット)を基に、問題を解く(アウトプット)理解の定着できるようにする。

科目名 (英)	衛生管理 Hygiene management	年次	1	実務経験	担当	加藤 亜希
		授業形態	講義			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・専攻	美容師科	単位	1			曜日・時間
講師紹介	現役美容師として現場に立つ講師が、経営者の目線、顧客の目線、スタッフの目線をふまえた講義をおこなう。					
目的 科目概要	我が国の公衆衛生の歴史、現状、人口推移、高齢化の問題などを学び、美容業をする上での知識を持つこと。					
到達目標	公衆衛生・環境衛生の現状と今後の変化をふまえた我が国の課題を理解すること・国家試験課題を想定して、問題を解くことができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品 ■ 提出課題					
教科書	衛生管理			事前事後 学習と その内容	オンデマンド動画とノートの作成など(2年生国試対策まで使用)	
教材	教科書・筆記用具・(iPad)・プリントノート適宜					
特記事項						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	授業説明	授業説明・公衆衛生の歴史を学び、理解できるようになる
2	第1編 公衆衛生	①保健所 ②母子保健を学び、理解できるようになる
3	第1編 保健	①死亡率・健康増進対策 ②がん・虚血性心疾患・糖尿病を学び、理解できるようになる
4	第1編 保健	①COPD・喫煙・アルコール ②介護保険・精神保健を学び、理解できるようになる
5	第2編 環境衛生	①空気 ②温度を学び、理解できるようになる
6	第2編 環境衛生	①衣服・住居・換気 ②小テストを学び、理解できるようになる
7	中間試験	第1～6回の全範囲
8	振り返り	解答と解説を行い、より深く理解することができる
9	第2編 環境衛生	①上下水道 ②廃棄物を学び、理解できるようになる
10	第3編 感染症	感染症 総論(ハンセン病、痘そう(天然痘)、ペスト、結核、スペインかぜ:インフルエンザ)を学び、理解できるようになる
11	第3編 感染症	①P88 感染症の分類(法律による) ②感染症の分類(媒介経路による)を学び、理解できるようになる
12	第3編 感染症	①感染症の分類(病原体による) ②微生物の種類(細菌とウイルス)を学び、理解できるようになる
13	第3編 感染症	①微生物の病原性(汚染・感染・発病)②常在細菌叢を学び、理解できるようになる
14	定期試験	第1～13回の全範囲
15	試験の振り返り	振り返りを行い、より知識の定着ができるようになる

科目名 (英)	美容技術理論 Beautytechnological License	年次	1	実務経験	担当	蔭割 美実
		授業形態	講義			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・専攻	美容師科	単位	1			曜日・時間
講師紹介	サロン勤務店長を務め、London. VidalSassonAcademyで技術を習得その後フリーランスに映像、MV、プライダル、イベントなど活動している。					
目的 科目概要	美容技術理論2の教科書を中心に基礎知識を理解、習得する。国家試験筆記に必要な知識を身につけ合格を目指す					
到達目標	美容技術理論の基礎知識を理解し、習得する（8回目から変則クラスあり）					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■筆記試験 □実施試験 □作品 ■提出課題					
教科書	美容技術理論II	事前事後 学習と その内容	理解出来なかった所は、確認、復習をして覚えていく			
教材	美容技術理論II					
特記事項	筆記用具、ノート、ファイルを用意					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	8章 エステティック	穴埋め、解説
2	8章 エステティック	穴埋め、解説 小テスト
3	9章 ネイル技術	穴埋め、解説
4	9章 ネイル技術	穴埋め、解説 小テスト
5	10章 メイクアップ	穴埋め、解説 小テスト
6	10章 メイクアップ	穴埋め、解説 小テスト
7	中間試験 8.9.10章	8.9.10章から出題
8	11章 日本髪	穴埋め、解説
9	11章 日本髪	穴埋め、解説 小テスト
10	12章 着付け	穴埋め、解説
11	12章 着付け	穴埋め、解説 小テスト
12	12章 着付け	穴埋め、解説
13	復習問題 全章	解答、解説
14	定期試験 美免II全章	美論II全章
15	定期試験フィードバック	解答、解説、小テスト

科目名 (英)	美容実習(ワインディング) Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	宮城裕美 竹内有美
		授業形態	実習			
		時間数	60	有	開講区分	
学科・専攻	美容師科	単位	2			曜日・時間
講師紹介	長年美容師として現場に立ち実務経験のある講師が、美容師の国家試験に必要な技術・知識・心得を習得する授業を行う。					
目的 科目概要	国家試験の目標タイムに近づけるよう正しい巻き方でスピードアップ・作品の確認・修正方法を習得する。					
到達目標	国家試験第2課題である、ワインディング技術と衛生の取り扱いを学び、実践できるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品 <input type="checkbox"/> 提出課題					
教科書	美容実習 I 美容技術理論 I	事前事後 学習と その内容	正しい巻き方を身に着けておく ロッドとペーパーでの巻き込みを素早く正確にできるようにしておく とよい			
教材	WD用具一式					
特記事項	同じことの繰り返しになるが目標を持ち取り組んでいく					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	前期の振り返り	後期授業の進め方について 巻き方の確認 ブロックごとにタイムを計り修正しながら仕上げる 全頭タイムがはかれるようになる
2	国家試験スタイル	ブロックごと、全頭タイムを計る。センター・サイドの強化ができるようになる
3	国家試験スタイル	ブロックごと、全頭タイムを計る。フロントの強化ができるようになる
4	国家試験スタイル	ブロックごと、全頭タイムを計る。バックサイドの強化ができるようになる
5	中間試験について	全頭40分 中間試験の採点項目を理解し作品を確認する
6	中間試験の流れ	練習 全頭40分できるようになる
7	中間試験	中間試験 全頭40分できるようになる
8	中間試験の振り返り・返却	中間試験でできなかった箇所、部分の確認、練習を行う。
9	国家試験スタイル	ブロックごと、全頭タイムを計りスタイルが作れるようになる
10	国家試験スタイル	定期試験の採点項目を理解し作品を確認し、理解できるようになる
11	国家試験スタイル	練習 全頭30分できるようになる
12	採点項目について	定期試験の採点項目を理解し作品を確認し、理解できるようになる
13	定期試験について	定期試験の採点項目確認し作品を修正し、理解できるようになる
14	定期試験	練習 全頭30分
15	定期試験の振り返り・返却	定期試験できていなかった箇所、部分の確認、練習し、理解できるようになる

科目名 (英)	美容実習(オールウェーブ・セッティング)	年次	1年	実務経験	担当	小坏亜矢子 蔭割美実
	Beauty Practice	授業形態	実習			
学科・専攻	美容師科	時間数	60	有	開講区分	後期
		単位	2		曜日・時間	1組金3・4限 2組金1・2限 3組火3・4限
講師紹介	長らく培った美容師経験を生かし、国家試験課題の技術をわかりやすく指導し、個々の技術力や理解力を把握し、個々に合った指導を行う。学ぶ事の苦手意識が克服できるように努め、主体性が発揮出来る授業展開を目指す。					
目的 科目概要	目的:美容師国家試験の基礎知識、基礎技術を学び、国家試験に合格する力をつける。 概要:国家試験科目であるオールウェーブセッティング、衛生を学ぶ。手順や技術等を学びながら、国家試験の採点項目に沿って、技術向上を目指す。					
到達目標	国家試験第2課題である、オールウェーブ・セッティング技術と衛生の取り扱いを学び、実践できるようになる。 (4段目リフトカールまでをタイム内でマニュアル通り忠実に作る。)					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品 <input type="checkbox"/> 提出課題					
教科書	美容実習 I 美容技術理論 I		事前事後 学習と その内容			
教材	タブレット(teamsのマニュアル、動画)					
特記事項	マニュアル / 動画にたくさん細かい説明等を書き込む。理解できなかった事は、その日に必ず質問し、理解しないままにしない。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	・教材について ・1段目馬蹄形を作る	・用具の説明、セッティング・セニング・ローションのつけ方・コームの使い方・マニュアル配布 ・ハーフウェーブの作り方 ・馬蹄形を作ることができるようになる
2	・1段目馬蹄形の復習 ・1段目スカルプチュアカールを作る	・正しい馬蹄形を作る*立ち位置、指の向きにきをつける ・スカルプチュアカールの作り方、スライス取り、ピニングを覚える(8分) 1段目まで作成することができるようになる
3	・スカルプチュアカールをtタイムで作る ・2段目半円シェープとリッジを作る	・スカルプチュアカール6分 ・2段目かき出し、半円シェープ、リッジの作り方を覚える 2段目まで作成することができるようになる
4	・2段目リッジまでの復習	・スカルプチュアカール6分 ・馬蹄形～2段目リッジまで15分 ・正確な半円とリッジを作ることができるようになる
5	・中間試験の採点項目について ・3段目分け取りと3段目左右ウェーブ、リッジを作る	・中間試験採点項目を把握する ・3段目左右ウェーブとリッジを、幅や分け取り方を注意して作ることができる
6	・中間試験の練習 ・3段目左右リッジまで	・2段目リッジまで15分 / 3段目の半円、分け取り、左右ウェーブ5分 ・馬蹄形～3段目左右ウェーブまで20分
7	・中間試験	試験内容:馬蹄形～3段目左右ウェーブまで 20分で実施できるようになる 採点・評価・振り返り
8	・中間試験までの復習 ・3段目スカルプチュアカールを作る ・カールスペースを習得する	・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化ができるようになる ・馬蹄形～3段目スカルプチュアカールまで25分 ・セニングを入れ、3段目まで作成することができるようになる
9	・左右7段ウェーブを作る	・中心の幅、ウェーブ幅、各段の分け取り、リッジの強化 ・7段ウェーブ30分(3段目スカルプチュアカール込み) ・セニングを入れ、3段目まで作成することができるようになる
10	・7段ウェーブのクオリティーとタイムアップ	・中心の幅、ウェーブ幅、各段の分け取り、リッジの強化ができるようになる
11	・定期試験採点項目について ・7段ウェーブのクオリティーとタイムアップ ・7段目ウェーブまでのチェック	・採点項目を理解して練習 ・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化ができるようになる 左右7段ウェーブまで30分
12	・7段ウェーブのクオリティーとタイムアップ	・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化ができるようになる ・7段ウェーブ25分(3段目スカルプチュアカール込み)
13	・7段ウェーブのクオリティーとタイムアップ	・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化ができるようになる ・7段ウェーブ25分(3段目スカルプチュアカール込み)
14	・定期試験	試験内容:左右7段ウェーブまで25分でできるようになる
15	・7段ウェーブのクオリティーとタイムアップ ・4段目リフトカールを作る ・2年次について	・定期試験で減点された技術向上を図ることができるようになる ・4段目リフトカールのクオリティーアップ(5分)★位置・大きさ・ステム強化

科目名 (英)	美容実習 (カット) Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	竹内 有美
		授業形態	実習			
学科・専攻	美容師科	時間数	60	有	開講区分	後期
		単位	2		曜日・時間	火曜3~4限・金曜1~2限・3~4限
講師紹介	美容師として長きに渡り現場に立ち実務経験のある講師が、カットとブローの基礎的な理論・技術をわかりやすく指導する。					
目的 科目概要	目的:カットとブローの基礎的な理論・技術を習得する。概要:カットのベーシックスタイルを学び、スタイルに合わせたブローで仕上げ、時間内に完成することができる。					
到達目標	ベーシックスタイルの理論・技術を理解でき、応用となる国家試験第一課題スタイルを習得する。正しい姿勢とシザー開閉を身につけることができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点~90点A(4.0)、89点~80点B(3.0)、79点~70点C(2.0)、69点~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品 □ 提出課題					
教科書	美容実習 I 美容技術理論 I	事前事後 学習と その内容	シザー開閉の練習を行い、取り扱いに慣れる。			
教材	マニュアル・動画					
特記事項	欠席した場合は、マニュアル・動画で学習してから授業に臨む					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	グラデーションカット ウィッグ③	ローグラデーションとハイグラデーションの差を理解する
2	グラデーションカット ウィッグ③	センター分け・耳周りの切り方・セニングシザーの使い方・アレンジを理解できるようになる
3	グラデーションカット ウィッグ③	メンズマッシュ・刈り上げ・セニングシザーの使い方・アレンジを理解できるようになる
4	グラデーションカット ウィッグ①	前下がりのグラデーションカットの手順を理解できるようになる
5	グラデーションカット ウィッグ②	前下がりのグラデーションカット・ブロー・セニングシザーの使い方を理解できるようになる
6	グラデーションカット ウィッグ④	前下がりのグラデーションカット・ブロー・セニングシザーの使い方を理解できるようになる
7	中間試験 ウィッグ⑤	前下がりのグラデーションカット・ブロー・デザインシート1つ作成し、スタイル作りができるようにする
8	振り返り・ ウィッグ④・⑤	評価を踏まえて課題の確認・耳周り、刈り上げの切り方・フリースタイル作りができるようにする
9	セიმレングスカット ウィッグ⑨新品ウィッグ	セიმレングスカットの手順を覚える ネープセクションまで 14cmのスタイル作りができるようにする
10	セिमレングスカット ウィッグ⑨	セिमレングスカットの手順を覚える トップセクションまで 14cmのスタイル作りができるようにする
11	セिमレングスカット ウィッグ⑨	チェックカットの手順を覚える・セიმレングスカット 12cmのスタイル作りができるようにする
12	セिमレングスカット ウィッグ⑨	セिमレングスカット 10cm・8cmのスタイル作りができるようにする
13	セिमレングスカット ウィッグ⑥	セिमレングスカット 10cm・8cmのスタイル作りができるようにする
14	定期試験 ウィッグ⑦	セिमレングスカット デザインシート2つのスタイル作りができるようにする
15	フリースタイル ウィッグ⑦⑧	フリースタイル 2つのスタイル作りができるようにする

科目名 (英)	美容実習(サロンワーク) Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	宮城裕美 足立祐季
		授業形態	実習			
学科・専攻	美容師科	時間数	60	有	開講区分	後期
		単位	2		曜日・時間	月1~4限(3.2組) 金1~2限(1組)
講師紹介	長年美容師として現場に立ち実務経験のある講師が、豊富な美容経験を踏まえ、美容師の国家試験に必要な技術・知識・心得を習得する授業を行う。					
目的 科目概要	基本技術の向上を図り、実在するサロンを想定した技術と接客マナーを習得する。 お店での実践的な導線を実施する。					
到達目標	ビューティーサロンに向けサロンでの個々の動きを把握しクラス全体で動けるようになる。 本技術の向上を図り、実在するサロンを想定した技術と接客マナーを学び、実践できるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点~90点A(4.0)、89点~80点B(3.0)、79点~70点C(2.0)、69点~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品 <input type="checkbox"/> 提出課題					
教科書	美容実習1 美容技術理論1		事前事後 学習と その内容			
教材	シャンプー用具一式					
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	サロンワーク実践 ブローの強化	バックシャンプー練習、サイドシャンプー練習 サロンワークの運営について話し合いを行い、実践できるようになる
2	サロンワーク実践 ブローの強化	バックシャンプー練習、サイドシャンプー練習 サロンワークの練習、話し合いを行い、実践できるようになる
3	サロンワーク実践 ブローの強化	バックシャンプー練習、サイドシャンプー練習 サロンワークの練習、話し合いを行い、実践できるようになる
4	サロンワーク実践 ブローの強化	バックシャンプー練習、サイドシャンプー練習 サロンワークの練習、話し合いを行い、実践できるようになる
5	中間試験について	サロンワーク フィードバック サロンワークの話し合いを行い、実践できるようになる
6	中間試験の流れ	フィードバック、前回の反省を生かしてサロンワークができるようになる。
7	中間試験	フィードバック、前回の反省を生かしてサロンワークができるようになる。
8	中間試験 振り返り・返却	フィードバック、前回の反省を生かしてサロンワークができるようになる。
9	ビューティーサロンにむけて	フィードバック、前回の反省を生かしてサロンワークができるようになる。
10	ビューティーサロンにむけて	フィードバック、前回の反省を生かしてサロンワークができるようになる。
11	ビューティーサロンにむけて	サロンワークを実践し、準備ができるようになる
12	バックシャンプーの練習	フィードバック、前回の反省を生かしてサロンワークができるようになる。
13	定期試験について	定期試験の流れで授業を行かない、理解できるようになる。
14	定期試験	サロンワークを実践し、自分たちで先を考えて行動できるようになる
15	定期試験 振り返り・返却	定期試験の振り返りを実施し、できたことできなかったことを理解できるようになる。